

# 第1回桑名市ブランド推進委員会

日時：平成28年7月25日（月）

午後1時00分

場所：春日会館

## － 会 議 次 第 －

### 1. 開 会

### 2. 委嘱状交付

### 3. 市長あいさつ

### 4. 報告事項

(1) くわな石取祭について

(2) ブランドコンセプトブックの展開について

### 5. 委員長・副委員長の選出

### 6. 議事

・桑名本物力博覧会（桑名ほんぱく）について

①長良川おんぱく公式ガイドブックに掲載する10プログラムについて

②来年度の取り組みについて

③その他

### 7. その他

事務局からの連絡

・次回会議の日程について

平成28年 月 日（ ） 時から

### 8. 閉 会

○事務局 定刻になりましたので、ただ今から、平成28年度第1回桑名市ブランド推進委員会を開催させていただきます。

本日の進行をさせていただきます、ブランド推進課の柴田です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

皆様には、委員へ引き続きのご就任をお願い申し上げましたところ、快くお引き受けいただきまして、ありがとうございます。また、本日は、大変お忙しい中をお集まりいただき、重ねてお礼を申し上げます。

本日の委員の出席者は、風間委員が少し遅れているのですがけれども間もなく到着する予定ですので、委員5名、専門委員1名であります。ブランド推進委員会条例第6条第2項の規定により、会議の開催要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。なお、本日、横井専門委員が所用のためご欠席でございます。

また、この会議は公開でございます。傍聴等を許可しておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、まず委嘱状の交付ですが、本日は時間が限られておりますため、略儀でお手元にお配りしてございますので、収めていただきますようよろしくお願いいたします。

では、開会にあたりまして、伊藤市長からご挨拶をお願いしたいと思います。

○市長 皆さん、こんにちは。桑名市長の伊藤徳宇でございます。

本日は今年に入りまして第1回目のブランド推進委員会を開催いたしましたところ、大変お忙しい中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。前回は3月の開催でしたので、ここ最近の桑名の動きも少しお話ししながら、ご挨拶させてもらえたらいいかなと思っています。

前回ご案内をさせていただきましたけれども、4月にジュニア・サミットが桑名で開催させていただきました。伊勢志摩サミットの1カ月前にG7の高校生がこの桑名に集まっただいて、さまざまな議論をしてもらいました。それと、この桑名の素晴らしさを知ってもらうというのを一つのテーマで取り組み、大変多くの市民の方にご参加いただき、何とか成功裏に終えたと思っております。

期間中に、「KUWANA NIGHT」という桑名行事を設定いたしまして、桑名の素晴らしいものをぜひ肌で感じてもらおうということで、石取祭の祭車を13台なばなの里の駐車場をお借りして並べました。子どもたちも太鼓とかねを体験していただくということで、かなりびっくりし、大変感動してくれました。その直前、雨の中の視察のため子どもた

ちはぐったりしていたのですが、バスで入ってきたときに、13台もの祭車と石取祭保存会の方と、そして2,000人の観客でぐるっと囲んだときに、彼らはまるでロックスターになったような気分で、急にテンションが上がり、太鼓をたたいて、かねをたたいて盛り上がってくれたということでもあります。この石取祭がユネスコの無形文化遺産に登録されるんだよという話をしたら、さらにこれは素晴らしいと感動していました。しかも、自分たちのためだけに、史上初、伊勢大橋を渡って、桑名の石取祭が長島という地域で開催されたということをお大変喜んでいただけたと思っています。その後、ハマグリのパークを食べて、なばなの里のイルミネーションを見ていただいたということで、子どもたちは桑名のファンになってくれたのではないかと考えています。

その中で、私は大きなことに気づいたのですが、通訳がたくさん必要だということで、55名の方に通訳ボランティアをしていただきました。彼らは、子どもたちをおもてなしするために桑名の文化を勉強したのです。初めて石取祭を見る方もたくさんおられるわけです。自分が祭りについての説明をしっかりとすることで、それを聞いた世界から来た子どもたちが石取祭について感動する。そのことで通訳ボランティアの方たちが桑名ってすごいものがあるんだなとびっくりしていたというのが印象的でありました。やはり、桑名の素晴らしいものをより多く市民の方に知っていただく、外に対して桑名ってすごいものがあるんだよって、どんどん発信できるそんな時代に来ているのではないかなと改めて思いました。そういう意味でこのブランド推進委員会は、大変大切なものだと思っておりますので、今後ともご指導いただきながら、桑名のブランド化に努めていきたいなと思っております。

あと、今日の会場がなぜ春日会館かと言いますと、先ほど申しあげました石取祭の最後の本楽といいますか、ここの神社のお祭りということで、40もの祭車がここの門の前で最後に祭礼といいますか、ここに集まるということで大切な場所になっています。石取祭は日本一やかましい祭りと言われておりますけれども、国の重要無形文化財に指定されておまして、全国33カ所でこのようなお祭りがあります。このお祭りが一括してユネスコの無形文化遺産に登録をしようとしているところであります。この秋のユネスコの委員会の中で、恐らく登録されるのではないかと期待を持って、33の祭り関係者とともに、待っているところであります。今日は、その雰囲気も味わっていただくということで、DVDもご覧をいただこうと思っております。また、8月6日、7日が本番でありますので、ぜひともお越しをいただくとうれしいと思っております。

それから、この夏はリオ五輪がありますけれども、ことしは女子バレーボールのセッターの宮下遥選手が桑名の出身ということで、桑名は大変盛り上がっています。桑名市としては20年ぶりの五輪選手ということで大変盛り上がっておりまして、8月6日にイオンシネマ桑名さんでパブリックビューイングを開催します。夜9時半から多くの方で桑名の宮下選手を応援しようと思っております。

また、今日、お手元に映画のチラシが入っておりますが、映画「クハナ！」が9月3日からロードショーされます。桑名を舞台にした映画をつくろうと、桑名市民あげて取り組んだ映画が上映されることとなります。ブランド推進課内にフィルムコミッションを設置しまして、映画の誘致に取り組んできました。例えば、北野武監督の作品とか「日本で一番悪い奴ら」という映画のロケ地にはなっているのですが、桑名のロケは映画の一部だけということになってました。なかなか桑名全体がPRできなかったわけですが、今回、映画「アンフェア」の脚本家であります秦建日子さんに初監督作品を撮っていただいたということで、桑名を大変プッシュいただいていますし、本屋にはこの映画の小説が、今すごく並んでおりますので、ぜひお手にとっていただいて、また映画もご覧いただければと思っております。

今日は桑名ほんばくについて議論いただくということもございますし、また、国交省木曽川下流河川事務所の方からもミズベリングについてのご説明があるということも伺っているところであります。今日の会議も忌憚なきご意見をいただき、この桑名でのブランド化がしっかり進むことを心からご祈念申し上げまして、私からの挨拶といたします。今日はどうぞよろしく願いいたします。

○事務局            ありがとうございます。

それでは、事項書の4、報告事項（1）のくわな石取祭についてに移らせていただきます。先ほど、市長からもお話がありましたように、今年の11月終わりから12月の初めにかけて、ユネスコの無形文化遺産に登録される予定のくわな石取祭の映像を、解説を交えてご覧いただきたいと思えます。

事務局の水谷からご報告させていただきます。

○事務局            事務局の水谷です。よろしく申し上げます。

今日流させていただくDVDは、平成19年に無形民俗文化財になる前に5年間かけて調査をしたときに撮影したものの集大成したものになります。時代としては平成17年と古いわけですが、これは石取祭の総括という形のDVDになってますのでお渡しさせて

いただきます。ところどころ解説をさせていただきますので、よろしくお願いします。

(DVD視聴中)

一通り見ていただいたわけですが、この春日神社は、本当の名前は桑名宗社といえます。桑名神社と中臣神社という形で構成されていまして、2つが合祀されまして、桑名宗社という形で言われています。通称、春日さん、それは中臣神社は奈良の春日大社からいただいて祭っているという形になります。桑名神社は桑名首や天津彦根命等とかを御祭神としておりますので、そういった神社で行われる祭りになります。

今年、市長の挨拶にもありましたが、秋、11月28日から12月2日にかけてエチオピアのアディスアベバというところでユネスコの会議が開かれます。そこで答申されるという形になるかと思っています。トルコみたいにクーデターでも起きなければ順調にいくと思っています。以上です。

○事務局 石取祭のDVDを見ながら解説を聴いていただきました。ユネスコに登録をされると今以上に観光客等が多くなると思いますので、8月6日、7日の石取祭を、ぜひ見に来ていただけるといいかなと思います。

次に移ります。

(2) ブランドコンセプトブックの展開について、こちらも事務局水谷から報告させていただきます。

○事務局 水谷です。ブランドコンセプトブックは前回の3月29日のブランド推進会議で承認いただき、現在活用させていただいております。ブランドコンセプトブックの活用方法としましては、まず、市のホームページからダウンロードができるようになっております。また、トリップアドバイザーの市のランディングページからもダウンロードしていただけるように、ネットにアップさせていただいております。

あと、間に合えばよかったのですが、広報くわな8月号の見本なのですが、お返しさせていただきます。特集として、伊藤委員長や学生さんにもいろいろ手伝っていただいて、見開き2ページで作成しました。

また、今年10月ごろに「桑名市暮らしの便利帳」が発行される予定になっております。そちらにはコンセプトブックをそのまま掲載されるようになっておりますので、桑名市民には広く周知できるのではないかなと思っています。また、こちらは広告収入で作られていますので、市の費用負担はございませんので、非常にいいやり方だと考えております。今後、市のいろいろな部署でつくられているポスターなどに、ブランドマーク

も入れていただきながら、広くいろいろな方に知っていただけるようにしていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 次に移らせていただきます。

事項書の5、委員長、副委員長の選出です。条例第4条第1項及び第2項の規定に基づき、委員長及び副委員長の選任をさせていただきたいと思えます。

いかがでしょうか。

○安藤委員 委員長は伊藤委員長の留任でいかがでしょうか。

○事務局 ただ今、安藤委員から委員長に伊藤孝紀委員をとのご発言がございましたが、いかがでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いします。

(拍手)

拍手多数ということで、伊藤孝紀委員に委員長をお願いしたいと思えます。

それでは、以後の進行を議長の伊藤委員長をお願いしたいと思えますので、よろしくをお願いします。

○伊藤委員長 改めまして、委員長にさせていただきました。よろしくお願いいたします。

まだブランドコンセプトブックが広報くわなに出るという段階なので、今までやってきたことが形になっていないと思うのですが、今まで以上に頑張っていきたいと思えます。

副委員長なのですが、これも留任で諸戸委員にやっていただきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

ありがとうございます。では、諸戸副委員長、よろしくお願いいたします。

では、このような体制で引き続き、よろしくお願いいたします。

では、議題に移ります。桑名本物力博覧会について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 ブランド推進課の出口です。よろしくお願いいたします。

今年度の桑名ほんばくにつきましては、4月の「コーディネーター養成講座」を皮切りに、プログラムを企画・運営するパートナーを養成するために、会議や相談会などをここまで5回、そして個別相談会等については数十回実施してきた結果、昨年度は10個だったプログラムを、今年は44個ものプログラムを企画することができました。

進捗状況につきましては、6月以降、委員の皆様は個別で訪問し、報告させていただきました。また風間専門員につきましてはメールにて報告させていただきました。

お手元に、7月22日時点で取りまとめました、資料1「平成28年度桑名ほんばく4

4プログラムの概要」という資料をご用意しております。このうち、まだ若干ではありますが、現在調整中のものもありますのでご了承ください。

この中から、「桑名らしさのあるプログラム」、「市外の方をターゲットにする桑名を代表する題材」という基準で、長良川おんぼく公式ガイドブックに掲載する10個のプログラムを委員の皆様を選んでいただいた結果をまとめましたが、資料2となります。ちなみに、この資料1を網掛けしたものを資料2としてまとめたものになります。資料2をご覧ください。ここからは10個のプログラムについて、個別に紹介させていただきたいと思います。まず、今年度につきましては、44のプログラムを4つのカテゴリーに分けております。

まず、カテゴリー1の「桑名の本物を味わう」です。

ナンバー1は、歌行燈や蛤を満喫していただくためのプログラムです。こちらは歌行燈で落語家の寄席鑑賞と蛤ランチを召し上がっていただくというプログラムになっております。

ナンバー2です。寺町通り商店街を見てもらうためのプログラムです。商店街にありますしぐれ屋「貝新フーズ」でしぐれ煮の製法を見学し、桑名別院本統寺では、この日のために聞光殿を特別拝観させていただき、その場で地元高校生茶道部によるお茶のおもてなしをするというものになっております。

ナンバー3です。海苔や輪中の郷という地域資源を体験してもらうプログラムです。海苔の生態や「水との共生」の歴史について展示解説を交えながら海苔すき体験をするものです。

次に、カテゴリー2の「桑名の自然を満喫する」です。

ナンバー4です。多度峡という地域資源を見てもらうためのプログラムです。スクリーンをご覧いただきたいのですが、こちらが神社の滝ですが、姫が竜に乗ったふうに見えると言われております。この機会に多度峡をハイキングして、この滝を見て、竜に乗った姫の姿を見ていただこうというプログラムになっております。

次に、カテゴリー3「桑名の歴史・文化・技を学ぶ」です。

ナンバー5は、桑名の千羽鶴を体験してもらうためのプログラムです。老舗和菓子店「花乃舎」で和菓子を召し上がっていただき、折鶴のワークショップを行うものです。スクリーンに出ている折鶴につきましては、昔男と呼ばれる折鶴になります。

次に、ナンバー6です。こちらは、芸妓文化を堪能してもらうためのプログラムです。

三重県では桑名市でしかお見えにかかれない芸子さんとお座敷遊びに興じながら、場所は老舗の「船津屋」さん、「魚重楼」さんで料理を堪能していただきながら楽しんでいただくという内容となっております。

次がナンバー7ですけれども、桑名の鋳物を体験してもらうプログラムです。こちらは鋳物工場「桑原鋳工」さんに協力をいただき、鋳物工場を見学し、湯のみをつくるというプログラムとなっております。

次がナンバー8です。こちらは日本刀を手にとって感じてもらえるプログラムとなっております。ガラス越しではなく、実物を手にとって、身近で感じていただくという内容となっております。

次がナンバー9ですね。諸戸氏庭園を独り占めするという画期的なプログラムです。1時間程度庭園を貸し切りにして、洋室、茶室、庵など普段は入ることができない場所をご覧いただきながら、そのうちどこかの一室でお茶を召し上がっていただくというプログラムとなっております。

最後、カテゴリー4として「桑名で身も心も美しく」です。

ナンバー10ですが、こちらはなばなの里でゴスペル野外ライブを開催するプログラムです。初心者の方でも簡単に参加できるようにワークショップをした後になばなの里の広場をお借りしまして、総勢50名から70名程度で高らかに歌っていただくという内容となっております。

以上が、ここまでの桑名ほんばくの取り組み、進捗状況の報告でした。

○伊藤委員長 報告ありがとうございます。各委員が10個選んで多数決で決めているので、審議事項というよりは報告事項とさせていただきます。

ただ、私自身も気を使ったところとしては、旧桑名市、長島町、多度町が横断的に入っていること。さらに、ブランドコンセプトブックにも出ておりますし、調査でも明らかになっている、現時点で桑名の本物だと言えるような資源、こういったものは積極的に入れていこうと。さらに、この2年間やってきたブランド委員の思いというものもやはり反映したほうがいいのではないかとということで、10個選ばせていただいています。また、プログラムをつくっていくワークショップを、私も参加させていただきました。非常に活気がありまして、実は私も勝手にアイデアを出して、発表させていただいたのですが、全く没になってしまいました。そういう形でこの10個が代表として長良川おんぱく公式ガイドブックに掲載されますが、これだけのプログラムが2回目にして集まっ

たということに、桑名ほんぱくの第一歩を刻んだと言ってもいいのではないのでしょうか。

続きまして、非常に足早な展開なのですが、来年度についてどういう形で進めていきたいと思います。事務局のほうからお願いします。

○事務局 水谷です。

2点ございまして、まず、この44プログラムの中に入っていない桑名らしさ、抜けているものは何かないのだろうかというところを、議論いただければと思います。

もう1点が来年からの事務局の運営ということで、桑名ほんぱくは、オンパク手法を利用しています。全国的に50カ所程度行われているわけですが、そのうち行政がやっているものが、3分の1ぐらいで少ないと聞いております。主体となっているところは観光協会であったりNPO法人であったりとか、あと個人が集まったNPOまでになっていない集団というところが事務局をやっています。ただ、行政がやるが悪いということではないと思います。行政は信用があるので、今回44ものプログラムが集まったというのは、やはり行政が核にいるというところで安心感があって、これだけのプログラムが集まったと思うのです。しかし、このまま行政が主導で続けいくのはどうなのかというところもありますので、できれば民間に足を少し置きながらやっていけないかというところで、何かご意見をいただければと思います。その2点でお願いしたいと思います。

○伊藤委員長 今回、3月から4月にかけて大きくスタッフが入れかわったということ、そして、冒頭で市長から説明もありました、ジュニア・サミットという桑名にとって記念すべき大きなイベントを運営しないといけないという実情もありまして、ほとんどの時間を費やされたのではないかと推察されます。ある程度形になってきて、ふたを開けると、非常にたくさんのプログラムの応募があったという状況です。とは言っても、桑名市役所で事務局をやりながらの話ですから、本来ですと民間の力を使って、もっと新しいブレークスルーできるような形というのを望まれるのではないかと思います。

この辺で、思いもあると思いますので、一言ずつ言っていただければなと思います。

クリス委員、いかがでしょう。

○クリス委員 はっきりどういう意見が欲しいのかわからない。例えば、今回44のアイデアが紹介されましたが、それに対して、今日、私たちからどんな意見が聞きたいのかわからない。今、ちょっと理解できない。ごめんね。他の委員の皆さんが同じ気持ちかどうかかわからないけど、例えば、今日の議題、この情報は今日出ました。ほんぱくをやるにあたって、いろいろ課題があるみたいで、それについて意見を聞きたいという

ことですが、市役所から、まずそういう状態をしっかりと説明してもらった上で、何かアイデアを出す方がいいかなと思っています。はっきりした答えじゃなくてすいません。

○伊藤委員長 おっしゃるとおりだと思います。

○クリス委員 ごめんね、文句じゃないですけど。

○伊藤委員長 いや、言い返す言葉もなく、私もそう思います。

その中で何かご意見、よろしいですか。

正直、私もこの状況をお聞きしながら、ちょっと思っていたこととしては、副委員長とも少し相談をしたのですが、今まで2年間、我々も思いを伝えてきました。もちろん、事務局からのアイデアだったり、現状だったりに対しても何とか改善策というようなこととしてきたと思いますから、一度、今までの我々の発言の実現したところとか、してないところとかを簡単な表にしてみてもは。ブランドブックは少なくともできているけど、まだまだ浸透してないとか、桑名ほんぱくはどういうプログラムが意見の中で具体的にされてて、どの辺がされていないとか、ほかにも多様な意見があるので、できること、できないこと、ないしは、さらに具体的に進んでいること、進んでいない度合いを簡単にさせていただいて、次回までには各委員に送れるといいかなとは思っております。

○クリス委員 どういう問題があってなぜできないとか、どういうことを知りたいとか、もうちょっとははっきりわかったらアイデアを出せると思います。今までいろいろなアイデアを出して、そのできない理由とかは軽く聞きましたけど、もうちょっとははっきりとわかったら、今度企画するときにはこういうことを考えなくちゃだめとかアドバイスができるはず。

○伊藤委員長 ということは、進捗の度合いだけでなく、バツとか三角のところはどうしてそれがなかなか進まないのだという、備考のところ少し理由も書いてほしいということ、そういうことですね。

副委員長から何か補足はありますか。

○諸戸副委員長 一言でブランドと言っても、ものすごく多岐にわたっているんで、観光しかり教育しかり、複数の要因で桑名のブランドというのはでき上がっているのです。このブランド推進委員会に重点的にどういうところを切り口として、対外的な人間を集めていて、どういう切り口で見てもらいたいのかというのがある程度ははっきりしてくるといいのかなというふうに思います。それから、このほんぱくに関しては足りないところという意味からいうと、本物であるということから言いますと、例えば、ハマグ

りは11月に食べて本当においしいのかという問題もあるので、通年の企画なのかなと思います。今回、ご紹介いただいた石取祭も十分に桑名本物力博覧会の一つの切り口でしょうし、そういう意味では全てのイベントの上に立っている、そういうブランドの位置づけなのかなと個人的には感じています。そうすると、市だけではなくて、観光協会とかいろいろなイベントを取りまとめている人たちに考えていただくという、そういう枠組みをつくらないと、やっぱり本物の一番いい状態を知っていただくというのはなかなか難しいのかなというふうに感じます。

○伊藤委員長　　確かに、桑名に来たら何かやっているということで、本物の関連事業の点が線につながって、そのうちメインになっていけばいいなと思います。そのあたりも踏まえて考えていただきたいですね。

風間さん、いかがですか。

○風間委員　　今日は開始に間に合わず、遅れて申しわけありませんでした。

皆さんの話を伺って、率直に思ったことは、諸戸さんが直前におっしゃっていた本物を一番効果的に感じていただくことはものすごくいいメッセージだなと思ったので、まずはそれが一つです。なぜかと言うと、今までのブランド推進委員会でも誰をターゲットに絞っていくかというときに、海外からのインバウンドという議論もありましたし、ブランドコンセプトブックはまず地元の方に一番感じてほしいという議論もありましたし、本物の感じ方というのは相手の感受性によって違うと思うのです。だから、ターゲットというのは、すごく大事な議論だったはずだと思っています。

海外の人からしても、国内の人からしても、日本に四季があることは素晴らしい資産だと思います。今回、イメージの中でしかなかった石取祭を映像で拝見して、何て素晴らしいと思いました。私は北陸出身なので、こんなに祭り一つで違うのかということを感じたわけです。そうすると、祭りというのは1年のうちで限られた日しかやらないもので、夏とか時期が決まっている。これはすごい制限だけれども、すごい魅力でもあるということで、1年中を通して桑名の本物を感じていただくというのはすごくいいコンセプトだなというのが2つ目に感じたことです。

そのターゲットと時期に合わせた本物、その根底に流れているのが一番旬な状態というものというのは、食べ物にしる、何にしる、日本文化にとって欠かすことのできない感性だと思います。それを桑名ほんばくとしてやるのであれば、何か考慮した考え方で展開するというのが大事でしょうし、開催時期が限られていたとしても、伝える文言一

つにも違いが出ると思うので、このブランド推進委員会として考えるほんぱくのスタンスというものが決められるだけで全然違うと思うのですよね。なので、市役所の方々にとっては通年の仕事の中でやらなければいけないですが、そこはポジティブにとって、市役所の方々が考えて推進していく部分にとっては1年を通したほんぱく考え方というのをつくるのはすごく大事なことだと思います。

では、運営に関して言うと、1年中やるわけにはいかないので、民間の部分であったりNPOの方であったり、限られた期間に尽力いただける方にパートナーをお願いするということが現実的なのかなと思いますし、私も関わっているいろいろな地域でも、実際に現場で動くのは地元の方が一番接するわけですから、それが望ましい形なのかなというのを改めて思います。

まとめると、行政がやった方がよりメッセージが伝わることと、現場としていろいろな課題がある中でこれは民間が、これはNPOが引き受けるという部分をきちんと議論した上で決めると、お互いやりやすいのではないかなと感じています。

○伊藤委員長           ありがとうございます。

恐らく、桑名ほんぱくがメインになっていて、そういうところが民間に委託されていたりしながら、諸戸副委員長が言われたように、1年通して、いろいろなところを巻き込んでいくというのは市の役割なのかなと聞きながら思っていました。

あと、ターゲットは、ブランドコンセプトブックもインバウンドでいきなり海外ではなくて、内部の市民にまずは桑名の宝というか資源を知ってもらいたいなというところから始まりました。この前、私が市内連携会議でレクチャーしましたが、残念ながら参加している人がブランドコンセプトブックを見たことがないという、この寂しい状態を何とかしなくちゃいけないと思いました。少なくとも市内の方々にはブランドコンセプトブックを見て、率先して広めていただけるような役割を担ってほしいと思う次第です。

黒田委員、よろしいですか。

○黒田委員           ほんぱくというのは一つの大きなアピールをしていくイベントの中心になっていくと思います。あと、市長のご挨拶の中で、桑名の地でジュニア・サミットが開催されたのは大きなことだったと思うんですね。それをうまく遺産というか、つなげていく方向というのはあり得るのではないかと考えています。小さいころから桑名に住んでいる子どもたちが、自分のまちを誇りに思っていくという気持ちを醸成する何かを盛り込んだほうがいいと思うんですね。ですから、ジュニア・サミットの記念で、国内、

もしくは海外からということもあり得るかもしれませんが、桑名の子どもたちも含めて参加できる事業が継続されていくことが望ましいと思います。あとは、石取祭がユネスコの無形文化遺産に登録されたとして、やはりこれもすごく大きなアピールポイントなので、いろいろな人に通じやすい要素というのは強調していてもいいと思います。

また、フィルムコミッションと関連したものも出てくるでしょうし、誰もがそれを聞くと、そういえば伊勢志摩サミットの前に桑名でジュニア・サミットがあったんだよねというものがあれば、それがずっと何かしら関連づけていけるといいですね。例えば、愛知万博にしてみても、その後の環境に対する意識が継続していますし、せっかくここでやったものをつなげていくことを意識すればいいかなと思います。その辺は行政が主導でやっていかなければいけないし、ある程度形になっていけば民間のほうにバトンタッチしていけばいいと思います。

○伊藤委員長　　子どもたちに伝えるからには、やったことを継承して、広めていくということも大事だなと改めて思いました。

安藤委員、お願いできますか。

○安藤委員　　私は、ほんぱくに参加される方にとって、行政がやられているということとは非常に大きいことだと思うんです。我々一般市民から言わせていただくと、行政がやられていることはきちんとしているという安心感が一番大きいですね。

それで、このほんぱくが2回目、3回目、4回目とこういったものに慣れて、市民の方、それからいろいろな外部の方も桑名ではこんないろいろな取り組みをされてるんだということが知れ渡っていった時点で、民間の方とかNPO法人とか、そういう方に少しずつ移管されていくのが、私は一番いい方法じゃないかなと思います。

ただ、いきなり運営を民間にと言われても、受けてくれる民間というのはどういったところがあるのだろう。例えば、これが商工会議所であるという場合は、これも行政と同じだと思うのです。料金を見てみても、1,000円から高いのは何万円というのまでありますが、そういったものを高いお金を払ってまで参加しようという気持ちは、多分、桑名市がやってるので大丈夫だという安心感があると思います。これは民間だったら、何万円もというと、多分みんな腰を引いて参加しないんじゃないかと思うのです。ですから、行政がやるというのは非常に大きい力になるんじゃないかなと思っております。

○伊藤委員長　　ありがとうございます。

そうすると、もうちょっと事務局には頑張っていて、広報くわなのづくり方は

いい例じゃないかなと思っております。行政の中に編集部があるけど、取材を実際やっているのはボランティアから育成を受けて、技能を身につけた市民の皆さんということなので、もしかすると母体は市内にあって、成熟するのを待つというのが一つ、来年度の兆しなのかなと、皆さんの意見を聞きながら思った次第です。

事務局のほうからよろしいですか。

○事務局 ありがとうございます。委員さんとお話をしていく中で、ほんぱくで努力しているところをお話しさせてもらってよろしいですか。

まず、プログラムが28ページほどになりました。その中で、ほんぱく期間に開催される桑名のいろいろなイベントをやられる商工会議所さんなどにお声かけさせていただいて、間に合うところについてはイベントの情報を集約させていただくように努力させていただいたという経緯があります。あと、市が持っている施設でのイベントを載せさせていただけるように努力いたしました。1年を通じてほんぱくという形を最終的には目指していくというのがいいのだろうと、このプログラムの中を見ていると、蛤の旬は梅雨時から今ぐらいまでの産卵する前と言われていまして、美味しいものは美味しい時に食べていただくというのが一番大事なのかなと思いました。

○伊藤委員長 既存の団体と連携しようと思って働きかけているというのはとても重要な視点なので、最初の報告のときにもっと主張していただいたほうが、頑張っているんだなというのが伝わったかもしれないですね。

ほんぱくに関してのその他に何かありますか。

○風間委員 僭越ながらなんですけど、水谷さんのお話を聞いて、皆さんがここには表れてこないご苦労というものが少しでも議論に出たというのはすごくいいことだなと感じました。それを受けて、私が市長にお聞きしたいことを質問したいと思います。

私はいろいろな地方を回らせていただく中で、今、熊本県水俣市に伺っているんですね。水俣病という日本で初めて公害があったところですが、ごく知られてしまったけど、何十年かけて、今の水俣をもう一度考えようという時代が来ていまして、過去のことはもちろんですが、水俣が考える未来を一緒にお仕事で考えさせてもらっています。その中には行政の職員の方もいれば、会議所の方もいれば、事業所さんもいれば、主婦の方と、いろいろな方がいらっしゃるんですけど、そこでよく話が出ているのはどんなイベントをしても、どんな事業者さんであっても、やっていることというのはツールであると。ツールというのは手段である。なので、これを通して何を実現させたいのかということ

が一番大事だと思うんですよね。じゃ、桑名市を考えたときに、これまでの10年ぐらいの歴史のオンパクがありますが、オンパクのいいところを各自治体が活用しているという状況だと思うので、桑名としていい部分は生かしながら桑名流のほんぱくというのは全然考えられることだと思うので、改めてこのツールを使って桑名が実現したいこととか、メッセージを今一度共有させていただくと、来年に向けて皆さんの頭の中がちょっと整理されるんじゃないかなということで、市長に伺えたらと思いました。

○伊藤委員長        市長、よろしくお願いします。

○市長        いろいろ伺っていて、そもそもこれが本物なのかというのがあって、旬じゃない蛤を食べて本物なのかとか、村正持ったら本物かもしれないけれども、それはもう少し議論があってもいいかと思っています。ただ、第2回目になりますけれども、この短い開催期間に何とか形にしようということで、職員が努力をしてくれて、こういう形になっているのかなと思います。需給ギャップじゃないんですけど、こういうのをやってほしいよねとか、こういうのがあったらいいよねとか、市がこういうのをやりたいというのが、うまくマッチングができてなくて、批評に慣れてないと思うんです。そういう意味でやりたいが先に出て、こうしたらいいのに、この方が絶対おもしろいというのが、うまくコーディネートしきれないのかなと思いました。次はそういうところもしっかり力を入れなきゃいけないと思います。そういう意味では、通年でやるというのが一つあって、本当においしい時期においしいものを食べてもらうとか、一番いい時期に一番いいものを見てもらうとかをしっかりと考えなくちゃいけないと改めて思いました。

そして、ツールで何を伝えたいのかということですけど、この桑名という街は3回死んでいると思うんです。最初は明治維新のときに賊軍にされて、城も石垣も壊されて精神的にダメージを受けて、第二次世界大戦でこのあたりは火の海になって、昭和34年には伊勢湾台風で何もかもが水浸しになり、そこから復活している街だと思うんです。そういう意味では建物とかは壊れたり、焼けたり、燃えたり、水に浸かったりして残ってないですけども、祭りとか千羽鶴の文化のような桑名のマインドというのはまだ残っていると思うのです。

例えば、クリスが言うようにお城をつくれれば精神的な支柱なるんじゃないかというのも分かるし、そういうこともしていければいいなとは思いますが、いきなりそこに到達できない。桑名の良さに桑名市民が忘れてる。そういう部分が僕はあると思うので、桑名の本物って何だろうということに、みんながまずしっかり考えて、それに向けて取

り組んで、それぞれできることを考え取り組んでいくきっかけにしたいと思いますね。

「本物力こそ、桑名力。」問題というのもありましたけど、本物にしていくんだという力こそが、これからの桑名の力だと思っているので、そういうものにみんなが目を向ける、一つのきっかけにしてほしいと思っています。そういう意味では、今、よちよち歩き感が非常に漂っているんですけども、これが桑名の方々と、また皆さんと一緒にになって、こうしたほうがいい、こういうものがないんじゃないかというのを、それぞれしっかり議論し言い合えるような場をしっかりとつくっていくのが一歩目なのかなと。そこからいろいろな人をどんどん巻き込んでいって、外の目でもこの桑名はこんな素晴らしいというのを共有していくことが非常に大事なんじゃないのかなと思っています。

○風間委員       はい。ありがとうございます。

○伊藤委員長       本物力の一番いいところは街全体を包含しようとしているところと、本物であろうがなかろうが、本物として磨き上げ成長していこうという志というこの2つのプロセスと全体性が、他の街とは違うブランドを目指しているところじゃないかなと、私自身も思っているので、それを継続しながらやっていきたいと思っています。

ぜひとも委員の皆さんにもいくつかのプログラムに来て体感いただいて、その中でまた具体的なご支援、ご意見をいただければいいなと思う次第です。

ということで、桑名ほんばくに対する議事は終了させていただきます。その他の議題としてもう1点あります。私自身もこの2年終わって、次なるステップに行くのに当たって、桑名ほんばくのプログラムを見ていくと、本当にキラッと輝きそうな行きたくなるような魅力的なコンテンツというのはそろっていますが、まだまだイベントなんですね。先ほど、本物力というのが街全体だという、フォーカス的だということを述べたのですが、都市の中、街並みの中、ないしはある一街区だとか、まちづくり的に言うならば、ソフトとハードが連携してこないといけないんじゃないかと。ハードといっても、都市整備部みたいなハード専門のところとソフトコンテンツの部が一緒になって何かやってよと言ったって、題材がないと一緒になれないと思うんですね。題材をつくるためにもどこか一つの拠点というか、これこそ本物力を体感できるような1ゾーンであったり、1つの取り組みがあると、我々の2年間やってきた抽象的な話が急に体感して、街の中で一つずつ芽が出てくるのを感じられるんじゃないかなと思うんですね。

そこで、今日は、国土交通省木曾川下流河川事務所長に来ていただいております。水辺の使い方というのが国でリーディングをされています。水辺というと、桑名は非常に

いい資源をもっているじゃないかと。これを使わなくちゃもったいない。そういった提案として、国がやっている最先端の取り組みを紹介いただくことで、うまくブランドとして使えないかなというところで、飯野所長、よろしいでしょうか。

○飯野所長       ありがとうございます。私は、6月21日付で国交省木曾川下流河川事務所の所長としてまいりました飯野と申します。よろしく願いいたします。

座ってご説明させていただきます。

ご説明の前に、先ほど本物力という話があって、今まである本物というのは、事務局さんが用意したプログラムの一つひとつに非常に興味をもって見させていただきました。今後磨き上げていこうという項目に関して、私たちもお手伝いをすることができるんじゃないかということでお話をさせていただきたいと思います。

封筒を開けていただいて、たたみ折りの資料を見てください。

まず、皆さん、表と裏を見ていただいて、少しイメージをもっていただいて、私たちの事務所は河川を管理しているということで、先ほどご案内あったブランドコンセプトブックの中にも木曾三川ということで書いていただいています。川を皆さんがどう思っているかというのは千差万別でございます。先ほど伊藤市長がご説明いただいた昭和34年の伊勢湾台風を経験された方はやはりまだ怖いものであると思います。蛤のお話も出ましたが、そこで生計を成り立てている方は非常に貴重な生産の場である。あと、今日ご覧いただいているように、水辺というのは憩いの場というニュアンスも醸し出しているのがこの資料でございます。

ここにミズベリングと書いてございます。これは国土交通省が2014年からやっている取り組みでございます。これは取り組みでして、こういうハード事業があるとか、そういうことではありません。こういうミズベリングというネーミングを使って、みんなで何とか水辺に人を呼び込みましょう、要は楽しいところですよ。楽しいところというのはふだんサッカーをしたり、グラウンドとして使うのもそうですけども、例えばバルのように飲食もできるとか、船に乗って川自体を楽しむとかいう運動全てをミズベリングということで国土交通省も支援していく取り組みをしているところでございます。具体的に桑名でどういうポテンシャルがあるのか、こちらの資料をご覧くださいませか。

表紙に趣旨が書いてありまして、「カタイお役所と気さくな関係をつくり、素敵な水辺をつくる方法。」ということで、桑名市役所さんはかたいとは思いませんが、国土交通省がどうしてもかたいお役所というイメージがあるので、こういうものをつくらせて

いただきました。

1枚めくっていただきますと、表題に、「規制緩和がもたらす、水辺のミライ。」とあります。国土交通省に限らず、国がさまざまな規制をしているということで、規制緩和は、安倍政権以前からずっと言われています。その中で、河川をうまく使っていただくためにどうしたらいいというのを私どもが考えたというところでございます。

さらに1枚めくっていただくと、「川では、何をしてもいいのですか？」という質問があります。基本的には川は好き勝手に使ってくださいということが書いてございます。釣りをしてもいいですし、相手の迷惑にならない限りにおいて、何でも自由に使えます。ただし、他の人々の利用が阻害されるような排他的、独占的利用をする場合には河川法上の許可が必要であります。長期間利用するイベント等。要はこの部分が、先ほどの議論の中にあつた民間の力も活用したいとかいろいろお話がございましたが、そういったときに、その民間がずっと排他的に河川敷を利用していいのかと。そうすると、かたいお役所としては、それはだめですよという答えを今までは返していました。

2番目にあります「河川の規制って、どんなものがありますか？」。

もともと河川は水が流れる場所なので、ずっとそこにものを置かれては困るのです。洪水が来て下流に流れたときにどうするのか、そういったところの排他的、独占的な話もございまして、河川というのはそもそも水が流れて、洪水が流れてくるものだから、いろいろなものを建てられては困るというスタンスも実はございます。

そういったものを以降、3番の話は、そういうことをやるためには河川管理者である私どもの許可を得てくださいという流れになっています。

そういったものを少し緩和しましょうということで、こちらのA4横表をご覧ください。左から右に、黄色、青色、紫色と、順番に規制緩和しています。一番右端をご覧ください。占用主体、これは河川の空間をお金にする主体としてどういったところを規制緩和しましたかというところなんです。例えば、桑名市さんとか公的主体がございまして。基本的には今までそういったところだけだったんです。それに加えて、空間議論協議会というのをつくってもらうところもございまして。これは、例えば水辺を具体的に利用する漁協さんとか、水上バイクとか、きっちり管理されているところがあれば、そういったところに入らせていただいているところもございまして。そういった方々がみんな集まって、河川をどうやって使うかという協議会をつくっていただいた上で、この部分については例え

ばバルみたいなことをやってみようとか、そういったところをみんなで決めていただいた場合の民間事業者。3番目に民間事業者と単体で書いてあります。規制は誰でもできるんじゃないかと、確かにそうなんですけども、ある会社が何でここにあるんですかというところをきっちり透明性と公平性をもって説明していただける。協議会をつくらなくても、このブランド推進委員会を通年でやってみようというお話が先ほどありました。そういった位置づけで、ある会社のためではなくて、これはブランド推進委員会のまさに試行錯誤の中でやっているところですよというのが、誰が見てもそれはそうですよねというところがあれば、私たちはぜひやってくださいという立場です。

そのA4裏側をご覧いただければと思うのですが、これはあくまでもイメージです。私どもが持っているイメージより専門の皆様たちの持っているイメージやアイデアのほうがもっとクリアで、楽しいことが多いんじゃないかと思うのですが、そこに道頓堀川の写真がございませけれども、右側に河川空間利用のイメージということで、看板を出してオープンカフェとか観光船とか船着き場みたいなものをつくるのであれば、そういったことに関するいろいろな許認可の話とか、かたい役所じゃなくなってやわらかい役所ということで、ぜひ皆様と一緒にこういった場の活用にご協力をさせていただきたいというのが、今日私がここに来てご説明した趣旨でございます。

いずれにしても、ミズベリングというネーミングでやってまして、ミズベリングだからできないとかではありません。具体的に言えば、私たちが整備しております七里の渡し公園とか住吉神社の周りとかこういう地域の一つの候補であるのかなと思っています。この中で必要なものであれば、私どももハード整備というのは行っていきたいと思えますし、継続的に使っていただくのもそうだし、維持管理の面につきましても、私どもだけではなかなか回らないところもございませるので、そういった先々のことも考えたプランニングを、皆様と一緒に考えていきたいなと思います。

私のほうからの説明は以上でございます。ご質問があればよろしくお願いたします。

○伊藤委員長           ありがとうございます。

今、公共の持っている公園や道路、河川だろうと、うまく民間活用をしていこうというのが国全体の動きになっておりますし、特に水辺という視点に立てば七里の渡しがある桑名は非常にいい資産をもっているのではないかなと思う次第です。

市長のほうからも何かありますか。

○市長           最初に委員長がおっしゃったように、ブランドってなかなか見えない。ソフ

トの取り組みが多い中で、目に見えるものができるといいなと思っていたんですけど、そのときにこのミズベリングのご案内をいただきまして、桑名には川というのは大変大切なブランド、資産があると思っているので、おもしろくなると思います。すぐにどうだということもあると思いますので、こういう取り組みを既にやっているところがあると聞いているので、そういうのも見ながら、できればこのブランド推進委員会でミズベリングの取り組みを一緒に進めていけるとおもしろいのではないかなと思います。

○伊藤委員長 近くだと、名古屋市堀川が入ってますね。

○飯野所長 はい。堀川でも取り組んでいますし、岡崎市や沼津市の加茂川とか各地で取り組んでいます。今、市長ご提案いただいたように、ただ見るのではなくて、役所側だけではなくて、具体的に民間事業者さんがどうやって取り組まれるとか、そういったものも含めて、もしご要望があればアベニューいたしますので、皆様の具体的なイメージを膨らませるのにお手伝いはできるのかなと思っています。

○伊藤委員長 せっかく所長が来ていただいているので、何か質問とか、これに関してご意見とかよろしいですか。

恐らくクリス委員からも具体的にどうすればいいのとかという意見も、水辺空間を生かすということで、水辺だったらこういうことができるんじゃないかとか、こんなアイデアだったら生かせるんじゃないかとか積極的に検討できればと思っています。そういう場所があるほうがわかりやすいと思いますし、我々の使命もありますので、引き続き、所長にはいろいろとアドバイスなどをいただきたいなと思います。

○伊藤委員長 これで今日の議事次第は全て終了となりますが、事務局のほうにマイクを返させていただきます。

○事務局 長時間にわたり議論いただき、ありがとうございます。

次回のブランド推進委員会に向けて、大きな課題をいただいたと思います。今日、議論いただいたことを持ち帰り、事務局で振り返りを行いたいと思います。

次回のブランド推進委員会ですけども、事務局のほうで調整をさせていただいた上で、また後日、ご連絡をさせていただきますのでよろしくお願いします。

長時間にわたって、ありがとうございました。

(閉 会)